

## 第 23 回サイトメトリー技術者認定試験 合格体験記

### 【I はじめに】

この度はこのような機会を頂き、日本サイトメトリー学会関係者の方々に感謝申し上げます。私は前所属および現所属において日常業務としてフローサイトメトリー（FCM）検査に携わっています。本稿では認定試験を受験するに至った経緯や自身の試験対策方法、当日の流れや試験の概要などをお話したいと思います。この体験記が今後受験される方にとって少しでも参考になれば幸いです。

### 【II 受験の動機】

サイトメトリー技術者認定試験の受験を決めた理由は、自身が FCM 検査に携わる中で、正しい技術および知識を習得することの重要性を日々痛感していたためです。FCM 検査は膨大な情報を得ることができ、僅かな腫瘍細胞をも同定することが可能です。しかし、検体の前処理（抗原抗体反応、溶血、洗浄）や解析作業（蛍光補正、ゲーティング、カットオフの設定）において、検査担当者の技量に大きく左右される要因が数多く存在します。また、前所属では Beckman Coulter 社の 10 カラー、現所属では BD 社の 8 カラーと使用する装置が異なることで、異動後しばらくは測定や解析業務に苦勞し、根本的な装置の原理や各種蛍光色素の特徴など検査に至る前に必要な知識の不足も実感しました。信頼される結果を報告するために、これらの知識や技術を習得することが急務であると考え、認定試験の受験に至りました。所属において、サイトメトリー技術者認定を有する諸先輩方に熱心に指導していただいたことも、認定に憧れ取得を志すきっかけとなりました。

### 【III 試験対策】

試験対策として、学会のホームページに掲載されている「認定サイトメトリー技術者筆記試験用到達目標」をチェックリストに見立て、これらに回答できるよう「スタンダードフローサイトメトリー第 2 版」を中心に読み込みました。それでも装置の原理や各メーカーの蛍光色素など、理解が不十分である範囲については、Beckman Coulter 社のサイトメトリードットコムや BD 社、Bio-Rad 社のホームページを参考にしました。また、知識の定着度を確認するために「チャレンジ認定試験」を活用しました。

### 【IV 技術講習会および試験】

当日は朝から DNA コース、表面抗原コース共通の技術講習会が開催されました。装置の基本的な原理からスタンダードに掲載されていないような最新の知見、日々の業務に直結する実践的な内容や症例問題まで、数名の講師の先生方がわかりやすく講義していただき、大変有意義でした。講習会の内容も試験に出題されますが、特に重要なポイントはより丁寧に解説して下さっていました。

試験は共通問題 25 問、表面抗原解析 25 問の計 50 問が選択式で出題され、制限時間は 90 分でした。問題を見直す時間も十分あったように記憶しています。到達目標に記載のあった範囲が万遍なく出題されていた印象でした。朝から丸一日と長丁場ですので、集中力を維持する必要があると感じました。

## 【V おわりに】

今回の認定試験の受験を経て、理解不足だった内容の再確認や知識の強化を行うことができ、非常に充実した期間を過ごすことができました。また、FCM 検査の有用性を改めて実感したため、臨床に信頼される結果を迅速に報告できるよう、今回の認定取得を活かすとともに、今後も知識面および技術面について磨きをかけていきたいと思えます。

最後になりましたが、日々の指導に加え、資格取得に向けてサポートいただいた県立病院の皆様に感謝申し上げます。